



令和7年度 学校経営方針

北九州市立石峯中学校
校長 本田 壽志

1 学校教育目標

一人一人が生き生きと輝き、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）の調和がとれ、学校や地域を愛し、自主自立の精神に満ちた生徒の育成
～笑顔と感動にあふれる石峯中～

2 学校教育目標達成の視点

- しつけるべきはしつける（徳）
- 教えるべきは教える（知）
- 鍛えるべきは鍛える（体）

<めざす生徒像>

- 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒【凡事徹底】
- 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒【知】
- 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒【徳】
- 健やかな心とからだを持つ生徒【体】

<めざす教師像>

- 生徒のために「知恵を出し、汗を流す」ことを惜しまない教師
- 教育公務員としての使命を自覚し、自己研鑽する教師
- 「春風以化」教育的な温かさや厳しさにあふれ、責任ある態度と教育実践で保護者や地域から信頼される教師
- “チーム石峯”として学校運営に積極的に参画し、協働意欲の高い教師

<めざす学校像>

- 明るく活気にあふれ、生徒・教師が生き生きと安全で安心して生活できる学校
- 生徒と教師がお互いに信頼と誇り（母校愛＝プライド）がもてる学校
- 清潔で美しく、落ち着いた環境で生活できる学校
- 保護者や地域と連携して「開かれた学校づくり」を推進し、信頼される学校

【本年度の重点目標】

- ① 不登校支援・未然防止・対応等不登校支援を推進する。
- ② 補充学習・・・主体的・対話的で深い学びに向けた実践研究を深めるとともに個に応じた補充学習を推進する。TT や少人数指導の充実。
- ③ 防災・減災教育・・・小学校・地域との連携を通して防災・減災教育を推進する。
- ④ 図書館教育・・・読書活動の推進、図書館司書と連携した取組を推進する。
- ⑤ 基本的生活習慣（挨拶・掃除・身なり・早寝・早起き・朝ご飯）学習規律、集団規律、家庭学習習慣の確立を図る。
- ⑥ 特別な教育的支援を必要とする生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実を図る。
- ⑦ 小中一貫教育モデル校・・・義務教育9年間で子どもを育てる取り組みを推進する。

3 目標達成のための具体的方策

① 不登校支援

- 不登校及び長期欠席・支援を要する生徒の対策
- 月2回の生徒指導委員会議の実施
 - ・不登校・長期欠席生徒については、常に欠席日数・状況を把握し、対策を図る。
 - ・家庭訪問が基本（家庭訪問をためらわない。2日連続欠席、家庭訪問を実施）
 - ・生徒や保護者の心情等に配慮した、別室対応。
- ステップアップルームの活用
 - ・積極的にステップアップルームを活用する。
 - ・不登校対策支援員と連携を取りながら、一人一人の生徒の実態に合わせてきめ細やかな指導を行う。
- スクールカウンセラーとの連携を積極的に行う。
 - ・コーディネーターの設置。
- 子どもつながりプログラムの有効活用
 - ・支援室等関係機関との連携を行う。

② 補充学習

- 補充学習の充実（担任・学年任せでなく、全校体制で実施する）
 - ・自主学習ノート・石峯ノートの全面的な活用
 - ・一人一台端末の活用（生徒の習熟に合わせる）
 - ・TTや少人数指導の充実。
 - ・「朝自習」と「石峯タイム」との関連を図る。
(朝自習課題を石峯タイムで小テスト等)
 - ・家庭学習時間の確保
(ゲーム・スマホ等との使用時間の制限 ～ 小学校、家庭との連携・啓発)
- ※ 学習室の活用【ひまわり教室（週2回）・補充学習等で活用】

③ 防災・減災教育

- 本年度も教育委員会の委嘱を受け、防災・減災教育推進校としての取組を行う。
 - ・コミュニティスクールとしての取組の一環として、地域や小学校との連携を通して防災・減災教育を推進する。
 - ・生徒会が中心となって3年間行ってきた、「防災・減災についての取組」を継続して行う。

④ 図書館教育

- 読書活動の推進、図書館司書と連携した取組を推進する。
 - ・子ども図書館と連携し、電子図書を活用した朝読書に取り組む。
 - ・子ども読書の日取組として、全校生徒参加でビブリオバトルを行う。
 - ・読書好きな子ども北九州一を目指す。
 - ・図書館を積極的に活用する。

4 基本的生徒指導の方針

(1) 基本的生活習慣及び好ましい人間関係の確立

○ 全教職員が同じ基準で対応する。

- ・ 基本はほめて伸ばす、しかし、だめなものはだめという是々非々の徹底。
- ・ 不適切な指導の防止（体罰・暴言等）。
- ・ 警察等関係機関との連携。
- ・ 「北九州子どもつながりプログラム（対人スキルアップ）」の実施（年間6回）。
- ・ スマホ等の学校の持込のルールの徹底（家庭との連携）。
- ・ 校内の見守りの徹底

(2) 生徒指導の徹底事項

○ <鮮度が命>「その日にあったことはその日に対応する」

問題事象が起こった場合、対応を決め、行動にうつす。即時対応が早期解決につながる。また、家庭訪問を重視し、顔を見て話すことが信頼につながる。

※どの子にも課題はある。どの子も問題を起こす可能性がある。我々教師が事案にどう対応するのかに全てかかっている。事実の確実な把握、関係職員・管理職との共有、その後の行動が非常に大切である。

○ <ブローコン・ウィンドウズ理論>「破損箇所は直ちに修理」

壊れた場所（ガラス・壁・トイレ・掲示物など）はすぐに修理。放置しないことが重要。破損箇所はすぐに教頭先生に報告。

掃除を徹底し、美しい環境を維持する。（掃除は汚れたからするのではなく、汚さないためにする。）

※「紙くず一つ拾いきれない人に何ができるか」

(3) 危機管理意識を忘れない

○ 高い危機管理意識

「いじめは誰もが加害者になり、被害者になる」との意識を持つ。

「いじめ・不審者・危険行為等の事件・事故等から生徒を守る」「これくらい」「まあいいか」「もうちょっと」が一番怖い。事案が起こったとき、保護者・地域の信頼を失ったとき、回復には相当な困難とエネルギーが奪われる。

いじめの問題、不登校・長欠については、「絶対に起こさない」という意識。

特に、始業前、休み時間、給食時間、掃除時間、着替えの時間、下校時が要注意。

○ 危機管理の「さ・し・す・せ・そ」と

「ハウ・レン・ソウ」＋「カクニン・キロク」

さ…最悪の事態を想定して

し…慎重に

す…素早く

せ…誠意をもって・誠実に

そ…組織で

ハウ…報告

レン…連絡

ソウ…相談

カクニン…複数の目で対応・確認

キロク…事実を時系列で確実に記録に残す

- 危機管理マニュアルに基づく危機管理体制の確立
 - ・ 学校管理下における事故、事件の未然防止及び発生時の迅速かつ適切な対応に努める。
 - ・ 学校生活（授業・給食・休み時間・部活動等を含む）及び登下校時の安全指導と保護者や地域との連携による安全の確保。

○安全点検の実施

- ・ 月1回の安全点検等による、校地・校舎の保全と危険箇所の早期発見及び補修
- ・ 薬品、教材教具、鍵等の管理及び施錠確認

5 特別な教育的支援を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実

- 障害のある生徒の視点に立って、一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた適切な指導及び支援を推進する。
- 個別の教育指導計画の作成に努め、校内支援体制の充実を図る。
- 特別支援教育の充実を図る職員研修を実施する。
- ※認知機能に課題のある生徒への理解と支援 ～ コグトレ（子どもの認知機能を高めるトレーニング）の研究

6 小中一貫教育モデル校としての取組の推進

- 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びの推進。
- 小中ギャップの解消
- 9年間を見通した核となるカリキュラムの検討（相互乗り入れ授業）
- コミュニティ・スクールの活用。地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを見守り支え育てる。

7 心の育ちを促す日々の教育活動の推進

- (1) 生涯保健を目指した「健康・食育教育」の推進
 - 生徒の毎日の健康観察の徹底（朝の健康チェック、教室の換気の徹底等）
 - 食育の推進
 - ・ 給食を生きた教材とした「食育」指導の推進。
 - ・ 給食残食を減らす取組の推進。
 - 教職員の健康が一番…時間外勤務の短縮（働き方を引き続き見直す）
 - ・ 「計画年休」の取得。ワークライフバランス、定時退校時間の推進、健康管理
- (2) 持続可能な社会を構築する態度を育てる教育の推進
 - SDGsの視点を踏まえた持続可能な開発のための教育の推進
 - ・ 質の高い教育をすべての子どもたちのために。
 - ・ 「つながるプロジェクト」について、生徒会・PTA・サポート会・地域と連携をとって実施していく。
- (3) 自己の生き方を考える人権・道徳・総合的な学習の時間・キャリア教育の推進
 - 人権教育では自分及び他人の大切さを認めることができる人権感覚を身に付ける
 - 総合的な学習の時間の学習は、横断的・総合的な学習として、探求的に学習し、自己の生き方を考える。

- キャリア教育では、将来を見通し、自立できる指導に努め、基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を育成
- 行事等の体験活動との連携
 - ・ 達成感や成就感、感動を味わわせる。

(4) 部活動の適切な運営

- 目標やきまりを遵守し運営する（基本は人間づくり）
- 規律や礼儀、感謝を重んじる指導
 - ・ 適切な部活動休養日の設定と徹底（スポーツ庁及び北九州市ガイドラインによる）。

8 地域・家庭との連携

- 保護者の負担軽減と、共同購入費、活動費の厳正な執行管理
- 開かれた学校（スクールプランをホームページで公表する）
 - ・ スクールプランを学校経営の軸とし、学校教育目標の実現に向け全教職員の共通理解を図り、目標達成に向け組織的に実践する。
 - ・ スクールプランと教職員アンケート、保護者アンケート・生徒アンケートを一体化したものを実施し、自己評価結果を公開する。
 - ・ P D C A サイクルを通して日常的に教育活動を評価し、改善する。
 - ・ 学校関係者評価を開催し、評価結果の活用と結果の公表を行う。
 - ・ 学校のホームページの活性化を図る。学校便り等を通じて学校の良さや特色を積極的に発信する。また、生徒の頑張り、学校の取組を随時「価値語」とともに校内に掲示する。
 - ・ コミュニティースクール、学校運営協議会の効果的な活用

9 教職員の、公務員（公人）や社会人としての自覚

- ・ 綱紀粛正、不祥事防止等、教育公務員としての服務・身分上の義務の厳守を心がける
 - ・ T P O に応じた服装や言動を心がける
 - ・ 学校内外における子ども間のわいせつ事案が増加 — 校内の見守りの徹底。
- ※不祥事案の撲滅（我々の仲間から不祥事案を絶対に出さない）

【最後に】

「春風以化」（春風のようにさわやかであたたかい接し方をもって教育する）
 「子どもたちのため」、「地域に信頼される学校」づくりため、先生方お一人お一人の力が必要です。校長として管理責任の重責を自覚し、石峯中のため、先生方と一丸となって教育活動に取り組んでいく所存です。子どもたちの健やかな成長のために、教職員の和を大切にして、共に頑張ってまいりましょう